

# 大正紡績 ベンガラ染め 本格化

## 天然染色3本柱〃そろろう

大正紡績は、伝統染色研究家の中島留彦氏とのコラボレーションで開発を進めてきたベンガラ染め糸「古色の美」の販売を本格化させる。現在、12色でサンプルを作っており、うち4色を先行して市場投入した。これで、すでに同社が商品化している彩土染め糸「ハニ染め」、草木染め糸「花染め」と合わせて「天然染料による染め糸の3本柱として展開する」（近藤健一取締役営業部長）考えた。

古色の美は、ベンガラ染めによるトップ染め糸。ベ

ンガラ染め自体は、酸化第2鉄を使った顔料染色として古くからあるが、従来は染色堅ろう度が低いといった顔料染色の弱点があった。これを中島氏が独自に開発したバインダー剤を使うことで解決した。酸化第2鉄に他の顔料を合わせることで、12色のトップ染め綿を開発した。

このうち大正紡績は「茜」「代赭」「鬱金」「古色」の4色を今期から先行して商品化。10番から60番を中心に、タオル用途やセーター用途などで販売す

る。その他の色に関しても現在、紡績段階での開発が進む。同社では、糸質が確立次第順次販売をスタートさせる方針だ。近藤取締役は「古色の美をホールガーマントでセーターにするなど、面白いモノ作りが進んでいる」と期待を寄せる。